

ふるさとを愛した画家・香月泰男

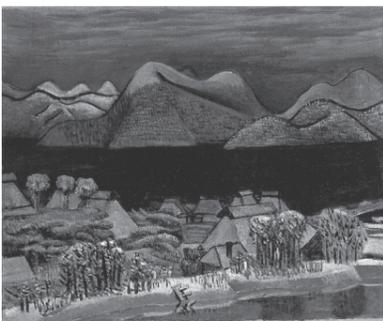
今年、香月泰男美術館は開館25周年を迎えます。ふるさと三隅をこよなく愛し、「ここが《私の地球》」といって生涯この地を離れることのなかった香月泰男画伯。美術館開館25周年を機に、あらためて香月泰男の生涯とふるさとへの想いを振り返ります。



香月泰男の生涯

明治44年10月25日、現在の長門市三隅に生まれた香月泰男は、幼い頃に画家になることを志し、実現させました。

東京美術学校（現在の東京藝術大学）で洋画を学んだ香月は在学中の昭和9年、第9回国画会展に出品した「雪降りの山陰風景」が初入選します。卒業後は北海道の倶知安中学校に赴任、その後下関高等女学校に転



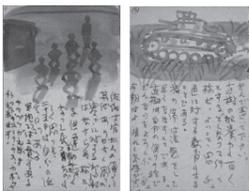
▲雪降りの山陰風景

任し、教鞭をとりながら絵を描き続け、国画会展や文部省美術展覧会に出品し入選を重ね、画家として着実にキャリアを積んでいきました。

昭和17年、31歳の香月に教育召集令状が届きます。翌年、山口西部第4部隊に入隊、その後、本召集となり、旧満洲（現中国東北部）のハイラルに配属されました。

当時、日本に残した家族への連絡として軍事郵便が使われました。香月はこのはがきに現地の風景や身の回りの出来事を淡彩で描き、絵の内容や家族を気遣う言葉を書き添えて、毎日のように出していました。

その数は約2年の間



▲軍事郵便（ハイラル通信）

に360通を越えます。これらのはがきは家族によって大切に保管されてきました。

昭和20年8月15日、終戦とともに、満洲にいた香月は旧ソ連の捕虜となり、シベリアに抑留されます。乏しい食糧事情と冬季は零下30℃を超える酷寒の中、森林伐採などの重労働を課せられ、命を落とす人も多かったのですが、香月は無事に復員することができました。

この年、香月は下関高等女学校に復職し、美術教師として教壇に立ちながら、以前のように絵を描いて、絵画展に出品を続けました。また、昭和24年にフォルム画廊（東京都中央区）で初めて個展を開き、以降亡くなるまで毎年ここで個展を開きました。

香月の画風の変遷と代表作「シベリヤ・シリーズ」

香月は戦前と戦後で作風が異なります。それは香月の抑留体験を描いた「シベリヤ・シリーズ」が契機となりました。戦後、身の回りのものを好んで描いていた香月ですが、1950年代後半から「シベリヤ・シリーズ」を本格的に描き始めました。全57点からなるこのシリーズは、方解末と木炭を用いた「黒い絵」が大半を占めます。この手法は「シベリヤ様式」とも呼ばれ、香月の代名詞にもなり、戦後の日本近代美術史に不動の地位を確立していきます。



▲母と子

一方で、香月はふるさと三隅をこよなく愛し、「ここが《私の地球》」と言って生涯離れることなく創作活動を続けまし

た。家族や動植物などにも目を向け、絵画、焼物、オブジェなど、多彩な作品を生み出し、昭和49年3月、62歳でこの世を去りました。

香月泰男の遺した言葉

ふるさと三隅を愛し、自然や愛する家族を描き続けた香月の遺した言葉からは、ふるさとへの愛情や平和への深い願いを感じ取ることができます。《私は毎年のことだが、今年も庭の椿を描いてゐる。ただ椿の花の咲いてゐるのが眺められるしあはせのしるしとして描いてゐる。》

《わたしは国より 家族のはうが大切であると思ふ。》

《家の中の音、空の音、野良からの音、街道からの音、すべて機械が発する音は美しくない。鳥の声、人の声、虫の、樹の、草の風声は心地よい。》

《ふき出る汗も 海の水のやうな味空も 水もすべてが 田舎では生きてゐる 青田の上を風が トンボを流す 夏があくまで 夏として生きてゐる 田舎田舎にこそ 本当の夏がある》

※『春夏秋冬』より引用

香月泰男美術館 開館

長年、香月家によって大切にされてきた作品の寄贈を受け、平成5年に香月泰男美術館が開館しました。これまでに49万人の来館者を迎えています。

初期から晩年までの油彩、素描、海外でのスケッチや、「おもちゃ」と呼ばれるオブジェなど、多彩な作品を収蔵しています。また、再現アトリエには生前の香月が愛用した品々がおさめられています。



▲平成5年にオープンした香月泰男美術館

これまでの展覧会と今後の予定

今年開館25年を迎える美術館では、開館当初から多くの展覧会を開催してきました。現在開

催中の展覧会「平和祈念展示資料館交流展『私のシベリヤ、それぞれのシベリア』」は80回目の展覧会となります。

この交流展は25周年企画として開催し、東京都西新宿の平和祈念展示資料館でも香月泰男の作品が展示されています。

※会期・10月28日(日)まで
また、歴代の展覧会告知用ポスターに掲載した作品から50点を選び、好きな作品をみなさんを選んでもらう人気投票を実施しました。第1位に選ばれた「1969.7.20の月星」をはじめとする作品は、来年2月からの展覧会で展示します。



▲1969.7.20の月星

美術館の活動

美術館では、展覧会のほかにさまざまな活動に取り組んでいます。

■香月泰男ジュニア大賞絵画展
全国の小学生・中学生を対象にテーマを決めて作品募集する「香月泰男ジュニア大賞絵画

展」は、今年で20回目を数えます。これまで「たべもの」や「いきもの」といった身近な存在をテーマとしており、今回は「家族」をテーマに作品を募集しました。入賞・入選作品は10月27日(土)から香月泰男美術館で展示します(21ページ参照)。

■おもちゃづくり教室
木に親しみながら創造性を高めることを目的とした「おもちゃづくり教室」を毎年8月に実施。参加者は、木片や枝などを組み合わせて自分だけのオブジェをつくります。



▲木とふれあう「おもちゃづくり教室」

そのほか、絵てがみ教室や館内でのミニコンサートなども実施しています。

■問い合わせ 香月泰男美術館
TEL 43・2500